

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年 4月 3日

【評価実施概要】

事業所番号	2274201876
法人名	加藤建設株式会社
事業所名	グループホーム ジョイ村松
所在地 (電話番号)	静岡市清水区村松原1-7-16 (054-337-1500)

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成21年1月21日

【情報提供票より】(平成20年12月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 09 月 01 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 9 人, 非常勤 21 人, 常勤換算 8.6 人	

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り 1階建ての1階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	26,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(180,000 円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,200 円	

(4) 利用者の概要(平成20年12月20日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名
要介護3	6 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 81.7 歳	最低 64 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	宮城島医院 ・ 相原歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設して4年目を迎えたホームで、デイサービスを併設している。開設時に定められた「その人らしく、安心した暮らし、なじみの暮らし」という理念の下に、利用者・家族・施設長・職員間の信頼関係も厚く、尊厳と自信のある暮らしが継続できるよう支援している。特に担当職員から個々の利用者宛の毎月の「利用状況報告書」は、家族からも喜ばれている。ターミナルケアに対する指針やマニュアルも定められており、他のホームにも参考になる。今回の自己評価票の作成にも職員全員で取り組み、改善や新たな気づきを見つけ出し、それを日々のケアに活かしている。願わくば、自治会への加入の努力を重ね、運営推進会議の開催頻度を高めることにより、更に利用者が地域の中でその人らしく暮らせるようになることを期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価や外部評価の結果を踏まえ、日夜改善に努力している。運営推進会議の開催頻度が、今後の課題である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価及び外部評価の意義を理解し、今回の自己評価票作成には職員全員で取り組み、評価を活かしてホームの具体的な改善に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>市・包括支援センター・地域・家族の参加・協力を得て、ホームの状況報告・質疑・意見・要望を聞き、ホームの運営に活かしている。家族の参加が多いところが特徴である。しかし、開催頻度が少ないようである。地域密着型への介護保険法改正の主旨にのっとり、地道に開催頻度を増やす努力を期待したい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月「ジョイ村松だより」を発行し、豊富な写真でホームでの全体の暮らし振りを報告すると共に、担当者より利用者一人ひとりの「利用状況報告書」を作成してお送りしており、家族からも喜ばれている。苦情・相談窓口は重要事項説明書に明記され、何時でも耳を傾ける体制にある。出されたご意見は職員全員で討議し、改善に結びつける努力をしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームでは全事業部共同でジョイまつりを開催し、出店やフリーマーケット、ゲームなどを行ったり近所のお祭りにも参加し、地域の方々ともふれあっている。近隣との友好関係は築かれている。更に地域密着型に相応しく、回覧板やホームの案内を回してもらえよう努力をお願いしたい。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム開設時に定めた「その人らしく 安心した暮らし なじみの暮らし」を運営理念に掲げ、運営規程・契約書・重要事項説明書にも「・・・地域住民との交流の下に・・・」を謳い、地域と一体となったサービスを提供するように取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	達筆な利用者が書いた理念が、誇らしげに飾られ、採用時は勿論のこと日常的に理念の共有化に努め、それをケアプランに反映して日々実践に向け取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎年秋には全事業部共同でジョイまつりを開催し、出店やフリーマーケット、ゲームなどを行ったり近所のお祭りにも参加し、地域の方々とふれあっている。近隣との友好関係は築かれている。	○	自治会は、法人には回覧板は回さないことになっているようだが、他の多くの自治会では回覧板を回したり、公民館をホームの行事に使わせてもらうようになってきている。地域密着型の意義の理解に、更なる努力を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価票作成には職員全員で取り組み、自己評価及び外部評価の意義を理解し、評価を活かしてホームの具体的な改善に取り組んでいる。		
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市・包括支援センター・地域・家族の、参加・協力を得て、ホームの状況報告・質疑・意見・要望を聞き、ホームの運営に活かしている。ご家族の参加が多いところが特徴である。しかし、開催頻度が少ないようである。	○	多忙な状況は理解できるが、地域密着型への介護保険法改正の主旨にのっとり、地道に開催頻度を増やす努力を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	具体的な委託事業等はないが、必要に応じて報告・連絡・相談をし、共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「ジョイ村松だより」を発行し、豊富な写真でホームでの全体の暮らし振りを報告している。また、担当者より利用者一人ひとりの「利用状況報告書」を作成して送付しており、家族からも喜ばれている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談窓口は重要事項説明書に明記され、何時でも耳を傾ける体制にある。出された意見は職員全員で討議し、改善に結びつける努力をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この1年は法人内の異動はあったが、退職者はいなかった。異動の場合は他の職員と勤務同行し、少しずつ利用者と同顔馴染みになって頂けるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画表が作成されており、職種に応じて内部・外部の研修に積極的に参加している。資格取得にも手当を用意し、積極的に支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	圏域会議やケアマネージャー連絡協議会・社会福祉協議会の会合等に参加し、同業者との情報交換をするなど、ネットワークの構築に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者・家族の意見を十分に聞き、見学時に他の利用者との交流や食事を一緒にしたり、併設のショートステイを事前に利用してもらうことなども提案し、馴染みながら利用できるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	バックグラウンド・アセスメントシートや日常の観察から利用者一人ひとりの持ち味を探し、お互いに学び、支え合い、感謝することを忘れないようにしている。普通の家庭のように、喜びや楽しみ、怒りや哀しみも互いに表現しあっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、今までの生活状況等をアセスメントシートに記入してもらい、施設長、管理者、職員で思いや暮らし方の希望を把握する様に努めている。あくまで利用者の意向を最優先に考え、利用者の視点に立ったケアに取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族からの要望を基にアセスメントを行い、毎月のグループ会議などで話し合い介護計画を作成している。介護計画には常に新しい情報が盛り込まれ、利用者本位の内容となっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態変化を、毎日の申し送りノートや看護師、全職員を含めた話し合いで情報交換を行い、3ヶ月ごとに介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設しているディサービスの設備での機能訓練、交流会、通院介助や家族の宿泊などを実施している。また、看護師からの健康管理の助言や、職員の積極的な外出支援など、利用者に安心して暮らせるよう多様な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人や家族と話し合い、かかりつけ医の継続やホーム提携医療機関への移行など、適切な医療を受けられる様支援している。通院、定期健診などは出来るだけ家族に協力をお願いしているが、日常看護師や職員との連携での健康管理には十分な配慮が感じられる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の対応については、全職員が経験しており、家族の思いやケアの困難さは全員が理解している。またターミナルケアの方針やマニュアルがしっかりと構築されており、他ホームの模範になるものと思われる。それに基づき、対応方針や医療機関との協力体制などを全員が共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの確保については、施設長始め全職員が理解している。一人ひとりの誇りを尊重し、言葉掛けやさりげない見守り対応など十分配慮している。個人情報の取扱いについても、ケースファイルや関係書類は専用棚で的確に管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念である、「その人らしく、安心した暮らし、なじみの暮らし」を合言葉に、職員全員が個々に合わせた様々な工夫をすることで、その人らしい暮らしの確保に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の体調面を考慮しながら、食事量、時間配分など利用者本人に委ねている。献立は希望を聞きながら作成し、買い物も毎日一緒にスーパーに行ったりして支援している。食事を通しての会話も楽しみながら、のんびりと過ごしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望や時間に合わせた入浴支援をしている。浴室は清潔感があり、開放的でのんびりと入浴できるよう、職員がさりげない声かけと見守りを行ない、工夫しながら支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメントシートの情報や日々の生活の中から、利用者の得意分野などを把握しながら、習字や洋裁など力を発揮出来る様配慮している。大道芸ワールドカップの見学や毎月の外食、ドライブ等様々な楽しみや気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の要望などを聞き入れながら、毎日の買い物、散歩等は日常的に行っている。近くには桜の名所や旧跡など多数あり、季節に応じた企画を立て花見、美術館、七夕祭りなど外出には職員で相談しながら支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵を掛けない暮らしの大切さを理解しているが、施設の構造上、防犯に備えてやむなく玄関のみ施錠をしている。また警察からの注意事項もあり、地域住民の協力を仰ぎながら、今後の安全対策を考えている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に数回、職員と利用者が参加して避難訓練を行っている。すでに災害時のマニュアルが出来ており、24時間対応が取れる体制を整えている。また、近隣の住民も協力的で、災害時の対応策もできている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の体調面など考えながら、食事量や栄養バランス、食事摂取量を毎日チェック表に記録している。水分摂取量も看護師が毎日問診を行い、一人ひとりの体調に合わせて確保し記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の共有空間は落ち着いた雰囲気であった。玄関には習字の得意な利用者が書いた理念が飾られ、各所に除菌効果の高い水を使用した加湿器が配置され、大きな窓や天窓からは日差しも多く入り、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者が長年使い馴れた家具や馴染みの品物が置かれ、小窓にはシクラメンの花や梅の小鉢など、また壁には氷川きよしの大きなポスターが飾られたり、利用者本位の工夫がされている。居室には加湿器も配置され、居心地よく暮らせるよう配慮している。		